

迎春



稲美町長

古谷博

「未来へつなぐまちづくり」

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、ご家族おそろいで健やかに平成31年の新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。さて、昨年を振り返ってみますと、稲美町においては、3月にまちづくりの基本方針や具体的な施策などを示す稲美町総合計画後期基本計画を策定し、4月には、母里幼稚園と天満南幼稚園で3歳児教育を開始しました。10月には、国安土地地区画整理事業で換地処分が完了しました。今年度は、幼稚園・小中学校に通う子ども達も、熱中症等を気にせず安心して学習できるような教室にエアコンを設置し、教育環境の充実を図ります。

新たに建設を予定しております子育て支援拠点施設については、子育て世代と高齢者等の多世代が交流できる複合施設として、実施設計を行います。

また、基幹産業である農業については、関係団体と連携しながら、稲美ブランドの農産物等を活用した特産品の開発を進めます。

土地利用については、田園集落まちづくり事業を継続して行うことで市街化調整区域の活性化を図るとともに、母里地区北部で将来工業地の確保を目指します。

そして、平成34年度に高砂市で運用が始まる広域ごみ処理施設の稼働に備え、東播磨2市2町での連携したごみの減量が喫緊の課題となっております。稲美町では、資源・ごみ分別アプリや、環境出前講座に加え、事業所の皆様にも広報・啓発活動をさらに積極的に行うことで、当町のごみの現状と課題を共有し、行政、住民、事業所が一体となつてごみの分別・資源化を進めたいと考えておりますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

今後も、住民の皆様と連携しながら、これまで取り組んできたまちづくりをさらに発展・充実させ、すべての世代の皆様が、ふるさとに愛着を持ち、「住んでよかつた」と実感し、夢と希望をもつて暮らし続けることができる安全で安心な稲美町を未来へつないでいけるよう誠心誠意、努力してまいりますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、住民の皆様にとりまして、健康で明るく幸せな一年となりますよう心からお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。



稲美町議会議長

赤松愛一郎

「身近な開かれた議会を」

あけましておめでとうございます。皆様にはご家族おそろいで新しい年をお迎えのことと、心よりお喜び申し上げます。旧年中は稲美町議会に温かいご理解とご支援を賜りましたこと、議会を代表しまして厚くお礼申し上げます。

昨年は、大阪北部地震、北海道胆振東部地震、豪雨など全国で自然災害が発生し、稲美町でも台風20号によりビニールハウスなどに被害が出ました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧復興を望むところであります。

本年は、年号が変わり新しい時代の扉が開きます。また、来年には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、その先には2025日本万国博覧会など国家的に盛りあがる行事が控えており、将来への夢と希望が膨らむ年となる予感がいたします。

さて、町村議会においては、全国的な人口減少や高齢化の進行の影響などもあり、議員への立候補者が減少するなど、議員のなり手不足が深刻化しています。

稲美町議会では、「開かれた議会」を目指し、議会開催日の生中継と録画放送をパソコンやスマートフォンなどで視聴できるインターネット配信を行っています。また、住民の皆様との対話と交流をさせていただく場として、団体、グループとの意見交換会を準備していますので、ぜひ、ご活用いただきますようお願いいたします。

これからも住民の皆様との相互理解の場を設けて、誰もが日々の暮らしの豊かさを実感できるまちづくりに議員一同全力で取り組んでいく所存でございますので、皆様の一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様方のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。